



TITLE:

八月の天象 (日蝕號)

AUTHOR(S):

CITATION:

八月の天象 (日蝕號). 天界 1929, 9(101): 414-417

ISSUE DATE:

1929-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161446>

RIGHT:

八月の天象

太陽

日	赤経	赤緯	星座	視直経
1	8時45分	北18度 5分	かに	31分34秒
11	9 23	15 21	しし	31 37
11	10 0	12 12	しし	31 41
31	10 37	8 44	しし	31 45

先月始め頃視直経は31分31秒の最小値であつたが、其の後、次第に増加しつゝある。月末、太陽の廻轉軸は、地球の方へ向つて最も大きく傾き、(7度)北極の方を吾人に見せてゐる。

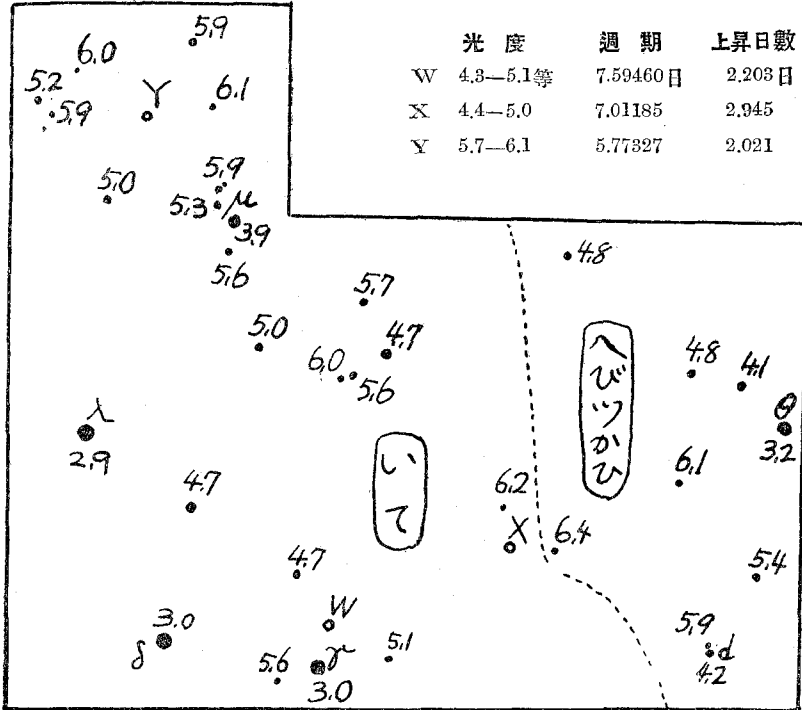
月

月の相	時刻	星座	視直経
新月	5日午後0時40分 6秒	かに	33分 7秒
上弦	12日午後3時 1分24秒	てんびん	30分 6秒
満月	20日午後6時42分18秒	やぎ	30分 2秒
下弦	28日午前5時 1分42秒	うし	32分 7秒
近地點通過	4日午前6時12分	ふたご	33分13秒
遠地點通過	16日正午	いて	29分29秒

今月の月はなかなか忙がしい遊星歴訪をするのであるが、其の割に、觀望に適する様な時刻に起る事が一度もないので、甚だ物足りぬ感じがする。先づ最初は、既に1日午前9時に木星に追ひ付く事から始まり、次いで翌2日正午には金星の北側を追ひ抜く。次は5日午後9時で、水星の北側を通り過ぎる。續いて翌6日午後8時には海王星を後にして、8日午後2時に火星の北側を追ひ越して通る。此れは日中ではあるが、丁度其頃、兩者は南中する頃であるから望遠鏡の所有者丈は、此の景色を見る事が出来る。併し兩者の距離4度であるから、あまり珍景でもない。15日午前9時土星と出合つて、その南側をすれ違ふ。24日午前4時天王星と出合ひ、28日午後11時には兩ひ木星に追ひ付き、31日夜半後即ち翌日午前1時には更に金星を追ひ抜いて、やつと今月の歴訪を終る。

變光星

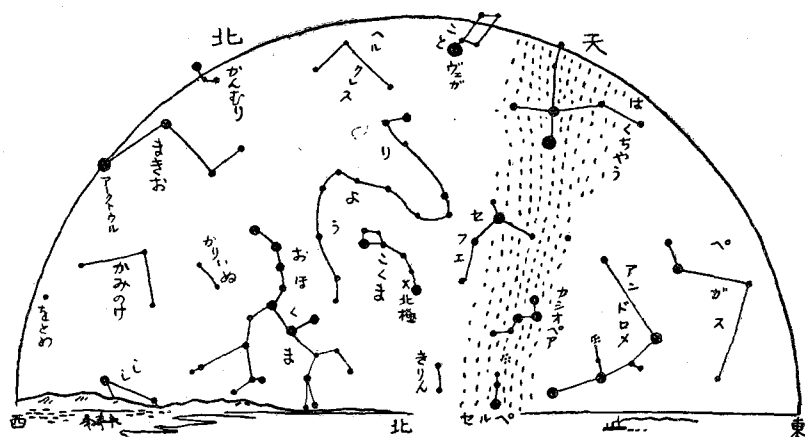
本會觀測部が活躍してゐるから、大いに利用されて、會員諸氏の研究を發表せられん事を御希望する。仍て、變光星の代表的星、即ち「こゝ」座ベ星、「セフェ」座デ星、アルゴール星、ミラ星、「かんむり」座 R 星、「ふたご」座 U 星、等々、本誌上で耳にたこが、否眼にたこが出来る程、讀まされた事と思ふので、此處では眼先を變へて、すすみ南方の星を御紹介しやう。圖に依つてお分りの様に「いて」座の X, Y, W の三星である。



上昇日數は極小から極大までの日數である。變光曲線は何れも「セフェ」座デ星型と云ふてよい。且つ三星共に光度が變化するに従つて、極く僅かではあるが、色が白から黄へ變化する。

流星群

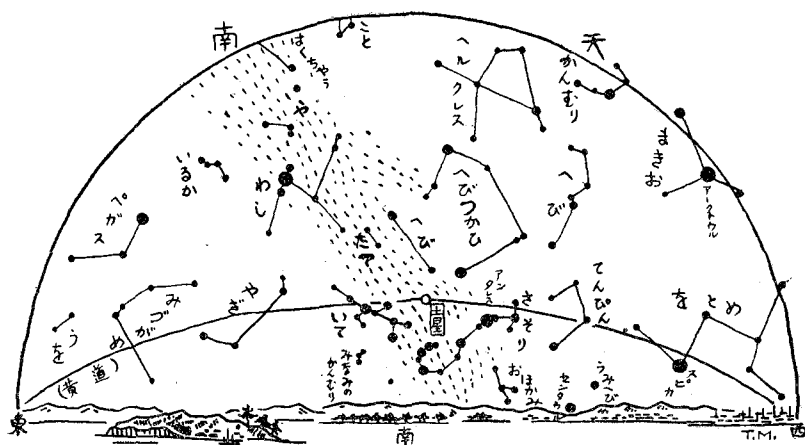
今月は例年の通り、10日より12日頂にかけて、「ペルセ」座流星群が現はれる。可成り著しいものであつて、時刻は午前1時頃から3時頃まで、ある。輻射點は、赤經3時0分、赤緯北57度附近である。此れと同じ頃に、「こゝ」座流星群がある。輻射點は赤經18時40分、赤緯北44度附近である。



恒 星 界

夏休みもなつた。山のキャンプへ、又海水浴場へ。いづこへ行つてみても、なつかしく眺められるものは、宵の南天を壓して輝く「さそり」の星座が、何んぞ云つても第一であらう。特に、遊星界の大立物たる土星が、美しい環を見せながら、此の「さそり」座に近い銀河中を彷徨してゐるのだから、殊更らに、此の附近には興味を引かされる。

丁度今、子午線を通過してゐるのは、「さそり」、「へびつかひ」、「ヘルクレス」、「りよう」、「こぐま」等で、「しし」や「おこめ」は既に、西山に低く、夏の星座で全天は一ぱいになつてゐる。銀河は南北に流れて、七夕の夫婦星は殆んで天頂近くまで上つて來てゐる。舊暦で行くこ今月11日が7月7日に當るので、七夕祭の日になるわけである。七夕祭の夜には失張り、上弦の月があつた方が、傳説とも合致して、一層情趣が沿ふて良い。従つて、此の祭は舊暦に従ふか、又は新暦に依つても、少なくとも、7月中の上弦の夜をトして行はれたいものである。



遊 星 界

水 星 月始めは太陽に近くて見えないが、月末には太陽より20度離れて宵の西天に、0等星として輝き、視直経は6秒程に増加する。10日の夜に獅子座 α 星の北側約1度の所を、更に12日早朝には海王星の同じく北側約1度の邊を通り過ぎる。

金 星 曉の星として「おうし」の東端より「ふたご」を通つて「かに」の西端に達する。次第に太陽に接近しつゝあつて、光度負4等、視直経15秒、共に徐々に減じつゝある。

火 星 宵の星で次第に太陽に近づく。「しし」より「おみめ」に移る。観望不適。

木 星 曉の星「うし」座の中央を順行中。光度負2等、視直経36秒。

土 星 愈々観望にはよくなつて来る。午後9時頃南中。「へびつかひ」東端を逆行中、で光度0等、視直経は15秒、共に徐々に減少してゐる。見る時刻から云へば都合はよくなるが、次第に遠去る故、其點からは都合は悪くなる。

天王星 夜半には東天に登る。「うを」の中央に6等星として輝やいてゐる。

海王星 「しし」にあるが太陽に近く、観望は駄目である。